令和６年度

山鹿植木広域行政事務組合議会　行政視察報告書

○期日

令和６年１０月８日（火）　～　令和６年１０月１０日（木）

○視察先

１０月８日　兵庫県赤穂市　公益財団法人ひょうご環境創造協会　赤穂事業所

１０月９日　徳島県上勝町

○視察参加者

【組合議会議員】	議　長	永　田　紘　二
	副議長	小佐井　賀瑞宜
	議　員	有　働　辰　喜
	議　員	小　川　榮　二
	議　員	伊　藤　和　仁
	議　員	勢　田　昭　一
	議　員	吉　村　健　治
	議　員	松　見　真　一
	議　員	松　川　善　範
	議　員	永　田　壮　拡
【随　　行】	局　長	阪　梨　　健
	係　長	富　田　武　史

○視察先及び目的

1　兵庫県赤穂市　公益財団法人ひょうご環境創造協会　赤穂事業所

『焼却灰等の再資源化』

（公財）ひょうご環境創造協会赤穂事業所では、住友大阪セメント（株）とタイアップして、既存のセメント製造施設を活用し、焼却灰等をセメント原料に使う資源化事業を実施している。

組合の最終処分場の搬入量の約８割を占める焼却灰等の再資源化は、施設の延命化（有効活用）を検討する上で最も効果的な手法であることから、（公財）ひょうご環境創造協会の取り組みを参考に、今後の組合事業に活かすことを目的とする。

2　徳島県上勝町

『ごみ減量化への取り組み』

上勝町では、2003 年のゼロ・ウエイスト宣言から、ごみ削減に努めリサイクル率 80%以上を達成している。また、2020 年に『未来のこどもたちの暮らす環境を自分のこととして考え、行動できる人づくり』を 2030 年度までの重点目標に掲げ、再びゼロ・ウエイスト宣言を行っている。

構成市のごみ減量化は最終処分場の延命化（有効活用）に直結することから、上勝町の取り組みを参考に、今後の議員活動に活かすことを目的とする。

兵庫県赤穂市　公益財団法人ひょうご環境創造協会　赤穂事業所

１　視察日時　　令和６年10月８日（火）　１３：３０　～　１４：３０

２　調査事項　　『焼却灰等の再資源化事業について』

３　視察先対応者
　　赤穂事業所長　　平 野　勝 則　様

４　調査内容
≪再資源の仕組み≫
　セメント原料として使用する粘土に含まれる成分が、焼却灰とばいじんにも含まれており、粘土の代わりとして焼却灰等を利用でき、天然資源である粘土の使用量が削減できる。
　また、焼却灰及びばいじんに含まれる鉄くずや塩分などの異物の除去が必要となることから、前処理を（公財）ひょうご環境創造協会赤穂事業所で実施し、セメント焼成処理を行う住友大阪セメント（株）に引き渡している。

≪その他≫
　最終処分場を確保している自治体は、環境やリスク分散の面から、残渣の一部をセメント原料化している。

≪まとめ≫
**　焼却灰・ばいじんのセメント原料化（再資源化）は、環境面やリスク分散（処理先を複数確保）を考慮すると非常に有効な処理である。**
**　ただし、最終処分場の残余年数に余裕のある組合においては、経費面を含めた検討が必要となる。**

【視察の様子】

徳島県上勝町

１　視察日時　　令和6年10月9日（水）　１０：００　～　１１：３０

２　調査事項　　『ゼロ・ウエイスト事業』

３　視察先対応者

上勝町長　　花　本　靖　様

合同会社パンゲア　　野々山　聡　様

４　調査内容

≪ごみ処理の経緯≫

野焼き（1997年まで）　⇒　小型焼却炉（約3年間使用し、ダイオキシン類の問題で廃炉）　⇒　外部委託（経費が高い）　⇒　ゼロ・ウエイスト宣言（2003年）　⇒　リサイクル率80%以上を達成

≪リサイクル率80%を達成・継続出来た理由≫

①人口が少ないこと、②「ゼロ・ウエイスト宣言」を行い、ごみの視察で上勝町を訪れる人やメディアによる取材等が増え、国内外から注目されることで、住民の「認知の欲求」が満たされたことによるものと分析している。

≪課題と現在の取り組み≫

今までの取り組みを通じて、上勝町（住民）の努力だけでごみゼロ（リサイクル率１００%）を達成することはできない。（ティッシュなどの保健衛生上問題となるもの、ゴム製品及び接着剤等を使用した複合品はリサイクルできない。）

そのため、新ゼロ・ウエイスト宣言（2020年）では、「2　ごみの再利用・再資源化を進め、2020年までに焼却・埋め立て処分をなくす最善の努力をします。」を「2　町でできるあらゆる実験やチャレンジを行い、ごみになるものをゼロにします。」とし、企業などとを巻き込んでいくことにチャレンジしている。

現在は、サントリーと協力し「PET」to「PET」の水平リサイクルや三菱地所とオフィスビルのゼロ・ウエイストに挑戦している。

≪まとめ≫

上勝町は、ゼロ・ウエイストなどの先進的な取組みを継続し、積極的な視察等の受入や町づくりを行うことで、新たな収入源の確保や住民の満足度を上げることに成功している。

【視察の様子】